

「日建連表彰2020」表彰式を開催

日建連は四月十九日、The Okura Tokyoにおいて新型コロナウイルス感染症対策を徹底して「日建連表彰2020」の表彰式を行った。「日建連表彰」は、土木分野の「土木賞」と建築分野の「BCS賞」で構成する新たな表彰制度である。初回となる今回は、土木賞は特別賞を含む一一件、BCS賞は一五件、合わせて二六件が顕彰された。

はじめに山内隆司会長が「二六件の受賞案件は、いずれも国民の生活基盤を支える社会資本整備の範を示し、わが国が誇る質の高い建築ストックの更なる発展に資するものである。今後とも、本賞が建設業界の代表的な表彰制度として定着することを旨とし、時代の要請に沿った制度運営に努めていく」と挨拶した。

次に、来賓の赤羽一嘉国土交通大臣から「日建連表彰はわが国の社会基盤インフラの存在価値と、建築物と土木技術の伝統を後世に伝える大変意義深いものである。今回受賞した二六案件は、いずれも企画から設計、施工、維持管理まで、そこに係わる多くの方々が無数の連携と協力のもと、意欲的に取り組んだ努力の賜物で、いずれも素晴らしいものである。今後、これらの受賞案件が土木・建築両文化の更なる発展に寄与し、また社会的資産として地域において愛され活用され続けることを期待している」との祝辞をいただき、家田仁（公社）土木学会長、竹脇出（一社）日本建築学会長からもそれぞれ祝辞をいただいた。

木村亮土木賞選考委員長、伊香賀俊治BCS賞選考委員代表による講評の後、宮本洋一土木部長、押味至一建築本部長から各受賞案件の代表者に表彰状が授与された。スライドによる受賞案件の紹介に続き受賞者代表が登場して表彰状を授与される間、受賞案件に込められた熱い想いを胸に関係者は自席で起立し、表彰状の授与を見守っていた。



来賓の赤羽一嘉国土交通大臣より祝辞をいただく



主催者として挨拶する山内隆司会長

建築主、設計者、施工者が三位一体となれたからだと感謝している。私はこの建物が五〇年といわず、一〇〇

年、二〇〇年と引き継がれていくってくれたら良いなと思っている」とそれぞれ受賞の喜びを語った。

最後に、受賞者全員で記念の集合写真を撮影した。表彰式終了後、参加者は会場に展示された写真パネルを見たり、パネルの前で記念撮影したりするなど受賞の喜びにひたっていた。

※役職は表彰式当時



パネルを設置し、検温やアルコール消毒など感染予防対策への協力をお願いした



十分な席間を確保し、ソーシャルディスタンスを徹底した



土木賞表彰状授与の様子



BCS賞表彰状授与の様子



記念の集合写真（撮影時のみマスク非着用）